

基本計画

2. いつまでもいきいきと



2. いつまでもいきいきと
福祉・健康づくり

①健康づくりの推進

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

健康寿命85歳以上 (H30年 男性78.3歳 女性81.1歳)

市民みんなが輝き、元気にいきいきとした生活を送ることができるように、自身の身体と心に目を向け、健康づくりに取り組むとともに、地域の力を生かして健康なまちをつくります。

■ 現 状

- 生活習慣病の予備軍であるメタボリックシンドロームの人が増えています。
- がん検診の受診率は、2割以下と低い状況です。
- 新型コロナウイルスなどの新たな感染症が拡大しています。

■ 課 題

- 健康意識を高め、望ましい食事や運動などの生活習慣を実践できるような取組を進める必要があります。
- 特定健康診査・がん検診の受診率の更なる向上に努める必要があります。
- 感染症予防、感染症のまん延防止対策が必要です。

■ 主な取組

New!! 感染症予防に向けた新しい生活様式の普及啓発に取り組めます。**感染症**

- 特定健康診査・がん検診の受診率向上のための啓発とインターネット予約など受診しやすい環境整備を進めます。
- 松阪市健康づくり計画に基づき、ウォーキングやはるる元気朝体操の実施など市民の健康づくりを支援します。

■ 関連計画

- 松阪市健康づくり計画
- 松阪市新型インフルエンザ等対策行動計画

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
特定健康診査受診率(40歳～74歳)	39.1%	60.0%	↑
大腸がん検診受診率(40歳～69歳)	8.9%	15.0%	↑
健康だと思っている市民の割合	78.4%	80.0%	↑

市民ができること

- ◆ 生活習慣病予防に取り組みましょう。
- ◆ 定期的に健康診査やがん検診を受診しましょう。
- ◆ 手洗い、うがい、ソーシャルディスタンスを保つなどの感染症予防に取り組みましょう。

■ 超高齢社会に向けた視点

- 生活習慣病や高齢者の筋力や活動が低下する「フレイル」の増加が懸念されます。運動習慣の獲得や生活習慣の見直しなど健康意識を向上させ、生活習慣病の重症化及びフレイルを予防する必要があります。

2.いつまでもいきいきと
福祉・健康づくり

②地域医療の推進

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

かかりつけ医を持つ市民 100%

身近な地域で医療を受けることができ、市民が安心して生活できる社会をめざします。

■ 現 状

- かかりつけ医を持つ市民の割合は、7割となっています。
- 休日夜間応急診療所の一次救急の利用は、年間1万3千件以上と多い状況です。
- 2020 (R2) 年の新型コロナウイルス感染症の拡大から、休日夜間応急診療所の利用が減少しています。
- 高齢化が進み、今後は地域の医療・介護の包括的な仕組みが必要となっています。

■ 課 題

- 救急医療の適正利用について、市民の理解が求められています。
- 休日夜間応急診療所の感染症対策が必要です。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、検査体制の強化が必要です。
- 松阪市民病院では、医師や看護師などの医療従事者を確保し、良質な医療サービスを提供するとともに、持続した健全な病院経営が求められています。

■ 主な取組

- **New!!** PCR検査センターにおいて、新型コロナウイルス感染症の検査体制強化を行います。 **感染症**
- 救急医療の適正利用について、普及啓発に取り組みます。
- 休日夜間応急診療所において感染症対策を強化し、診療を行います。 **感染症**
- **New!!** 松阪市民病院のあり方については、感染症への対応の視点も含めた松阪地域にふさわしい医療提供体制の整備に向けて検討します。

■ 関連計画

- 松阪市民病院ビジョン

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
「かかりつけ医がいる」と答えた人の割合	74.1%	80.0%	↑
医療施設、救急医療が整っていると感じる人の割合	24.6%	30.0%	↑
患者アンケートで「満足」と答えた患者の割合	96.1%	97.0%	↑

市民ができること

- ◆ 適正に医療機関を利用しましょう。
- ◆ 一人ひとりがかかりつけ医を持ちましょう。

③地域福祉・生活支援の充実

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

支え合い住み慣れた地域で自分らしく暮らせるまち

人と人、人と社会資源が世代や分野を超えつながることにより、地域で困っている方の早期発見・早期解決に向けた取組を実施し、住民が地域をともに創っていく地域共生社会を実現することで、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるまちをめざします。

■ 現 状

- 地域における福祉活動の担い手が人材不足となっています。
- 生活困窮者自立相談支援事業を実施し、生活困窮者等の相談にあたっています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に困窮し住居を失うおそれのある人などが増加しています。
- 保護率は年々減少傾向にあるが、受給者の高齢化がうかがえます。

■ 課 題

- 超高齢社会において、地域の中の多様な人々の参加を促すことで、福祉活動における負担感の軽減と人材発掘に努めることが必要です。
- 社会資源の活用を図ることで、生活困窮者の早期把握や支援者への制度周知と市民啓発に努めることが必要です。
- 生活困窮者の自立支援に向けて庁内連携体制づくりが必要です。
- 住居確保給付金の支給に向けては迅速な支給に努めることが必要です。
- 高齢の生活保護受給者の就労において、早期退職の防止に向けて希望職種と就職先のバランスを考慮することが必要です。

■ 主な取組




New! 複合的な福祉課題に対応する包括的な相談支援体制を構築します。

- 地域福祉(活動)計画における地域での取組の推進を支援します。
- 就労その他の自立に関する相談支援を行います。
- 自立支援プログラムによる生活保護受給者に対する就労等の支援を行います。

■ 関連計画

- 松阪市地域福祉(活動)計画
- 松阪市子ども・子育て支援事業計画
- 松阪市生活困窮者等就労支援事業実施計画
- 松阪市松阪公共職業安定所生活保護受給者等就労自立促進事業実施計画

● 数値目標 ●

項目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
生活困窮者自立支援相談受付件数	266件/月	270件/月	
自立支援プログラムによる就労支援での自立件数	30件	30件	
災害ボランティアセンターサポートスタッフの養成者数(累計)	126人	156人	

市民ができること

- ◆ 地域の中でつながりを持って、支え合える関係をつくりましょう。
- ◆ 福祉ボランティアに参加しましょう。

■ 超高齢社会に向けた視点

- 福祉活動において、地域の中の多様な人々の参加を促すことによる負担感の軽減と人材発掘に努める必要があります。

2. いつまでもいきいきと
福祉・健康づくり

④ 高齢者福祉の推進

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

在宅(自宅※や老人ホーム等)での看取り率 25%

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるための仕組みづくりを進めます。

■ 現 状

- 高齢化率は今後も増加し、2050 (R32) 年にピークを迎えると予測されています。
- 単身世帯や高齢者のみの世帯の増加により、介護サービス需要は増加、多様化すると予想されます。
- 2025 (R7) 年には65歳以上の約5人に1人が、認知症になると見込まれています。
- 地域包括ケアシステムの構築のために、2018 (H30) 年度から「松阪地域在宅医療・介護連携拠点」並びに「松阪市認知症初期集中支援チーム」の2つの専門部署を設置し、医療と介護の関係者が連携するための体制づくりに取り組んでいます。

■ 課 題

- 高齢者の社会参加の機会を増やし、元気な高齢者を増やしていく仕組みが必要です。
- 介護サービス等、公的サービスを補完する生活支援サービスや移動支援が必要です。
- 認知症の正しい理解の啓発を続けるとともに、認知症の方も安心して暮らせる仕組みづくりが必要です。
- 医療と介護の専門職の連携が進んできていますが、地域包括ケアシステムの推進のためには、病院等との入退院支援、急変時の対応、看取り等の場面における連携がスムーズに行われるよう、情報共有の仕組みづくりが必要です。




■ 主な取組

- **New!** 松阪市版エンディングノートを配布し、医療・介護関係者と連携し有効活用を進めます。 **超高齢**
- **New!** 認知症の方が安心して暮らし続けるために、認知症高齢者等個人賠償責任保険制度を開始します。 **超高齢**
- **New!** 成年後見センター開設により、判断能力が十分でない人の権利を守ります。 **超高齢**
- **New!** 健康寿命延伸のため、医療データ分析と専門職の指導を取り入れた介護予防で、効果的な取組を進めます。 **超高齢**
- **New!** 松阪地域独自の医療と介護の連携ハンドブックを活用し、在宅療養者のための多職種連携を進めます。 **超高齢**
- 地域住民主体による介護予防の集いの場を充実するため人的支援を行います。 **超高齢**

■ 関連計画

- 松阪市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画
- 松阪市健康づくり計画
- 松阪市地域福祉計画
- 松阪市障がい者計画

● 数値目標 ●

項目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
松阪市版エンディングノート活用方法を学んだ市民の人数	—	8,000人	
認知症高齢者等個人賠償責任保険の加入者数	—	400人	
介護予防活動のリーダー(介護予防いきいきサポーター)の数	724人	900人	

市民ができること

- ◆ エンディングノートを書いて、地域包括支援センター等の講座で活用方法を学びましょう。
- ◆ 若い年代から、もしもの時の医療と介護の希望について家族と話し合う機会を持ちましょう。
- ◆ 介護予防活動に積極的に参加しましょう。
- ◆ 地域の人と集いの場の運営に関わり、自身の社会参加を増やしましょう。

■ 超高齢社会に向けた視点

- 人生100年時代に入出し、新しい考え方の中で健康寿命延伸をめざすために、一人ひとりがいきいきと暮らすための生き方を尊重し、松阪市に住んでよかったと思える、地域に根ざした自助・互助の取組が必要です。
地域包括支援センターを中核とした、医療・介護・予防・住まい・生活支援などの整備や充実を進め、地域包括ケアシステムの実現と、医療や介護を支える人材や体制の強化が重要です。

※ 自宅とは、自宅のほか、グループホーム・サービス付高齢者向け住宅を含みます

⑤ 障がい福祉の推進

チャレンジ!

■ 10年後のめざす姿

障害福祉サービス利用者のうち、在宅で生活している人の割合※ **88%以上**

障がい者又は障がい児の多様化・複雑化するニーズに対応した福祉・医療等の総合的な支援により、地域で安心して生活できる環境づくりを進めます。

■ 現 状

- 障がい者や障がい児のライフステージに応じた途切れのない支援を進めています。
- 障がい者が必要な支援を受けながら、自らの意思により社会参加できる環境整備を進めています。
- 障がい者医療費を助成することで、障がい者の保健の向上と福祉の増進を図っています。
- 障がい者や障がい児が円滑な意思表示やコミュニケーションを行うことができるよう必要な取組を進めています。
- 障がい者の自立した生活を支援するため、グループホームの整備を進めています。

■ 課 題

- 障がい者が住み慣れた地域で安心して自立した生活ができるよう、相談支援体制の強化が必要です。
- 障がい者や障がい児が、必要な情報にアクセスしやすい環境の整備が求められています。
- 障がい者が安心して医療を受けられるよう、将来にわたって安定した制度の運営が必要です。
- 障がい者や障がい児、その家族等が、安心して生活できるよう大規模な災害や新型コロナウイルスなどの感染症に的確に対応できる体制の構築が求められています。

■ 主な取組



- 相談支援体制の充実に取り組みます。
- 地域で自立した生活を実現するため、グループホームの整備に取り組みます。
- 登録手話通訳者及び登録要約筆記者の確保と育成に取り組みます。
- 障がい者医療費の助成を継続して実施します。

New! 福祉避難所(障害福祉サービス事業所)の指定に取り組みます。

■ 関連計画

- 松阪市障がい者計画
- 松阪市障がい福祉計画
- 松阪市障がい児福祉計画
- 松阪市子ども・子育て支援事業計画

● 数値目標 ●

項目	現状(R1年度)	目標(R5年度)	目標種別
グループホームの利用者数(実人数)	131人	143人	
手話奉仕員養成講座受講者数(累計)	52人	167人	
指定相談支援事業所数	33事業所	35事業所	
福祉避難所指定事業所数(障がい者施設)	0事業所	5事業所	

市民ができること

- ◆ 様々な障がいがあることを理解し、職場や日常生活における差別や偏見をなくしましょう。
- ◆ ヘルプマークを見かけたら積極的に援助しましょう。
- ◆ 日ごろから近隣の障がいのある方への声かけを行い積極的にコミュニケーションをとり、地域交流を図りましょう。
- ◆ 障がいのある方が参加する事業にボランティアなどで参加し、理解を深めましょう。

■ 超高齢社会に向けた視点

- 家族介護が困難となり福祉サービスの増加が見込まれることから、施設整備を含む社会資源の充実が必要です。
- 介護職等の福祉サービスを提供する人材不足が懸念され、人材育成や働きやすい環境づくりが必要です。
- 親亡き後を見据え、成年後見制度や各種サービスの周知が必要です。

※ (障害福祉サービス受給者数-施設入所者数) / 障害福祉サービス受給者数